2022年8月 Japan Academy of Critical Care Nursing Vol.11

News Letter

発行責任　日本クリティカルケア看護学会　広報委員会
【一般社団法人　日本クリティカルケア看護学会事務所】
〒162-0833
東京都新宿区箪笥町43　新神楽坂ビル2階
TEL：03-5946-8847 /FAX： 03-5229-6889
E-mail：jaccn@supportoffice.jp

目次

1．第18回日本クリティカルケア看護学会学術集会開催報告（立野 集会長）
2．委員会活動報告（教育委員会）
3．COVID-19重症患者の終末期における家族面会に関する学会からの提案（終末期看護委員会）
4．編集後記

1．第18回日本クリティカルケア看護学会学術集会開催報告（立野 集会長）

18th JACCN学術集会にて

集会長　立野 淳子 氏

第18回学術集会は、「看護を紡ぎ、次代を拓く」をメインテーマに、2022年6月11日、12日の両日、北九州市において、現地開催に一部ライブ配信を取り入れたハイブリット形式により開催いたしました。現地開催後には、7月1日から31日までの1ヶ月にわたりオンデマンド配信を行い、1500名を超える方々に現地またはwebから参加いただき、盛会のうちに終了いたしました。

クリティカルケア領域における最善の医療やケアの提供は、実践と研究の両輪がうまく機能してこそなし得るものであるとの思いをプログラムに反映させ、あらゆる場で活躍するクリティカルケア看護師にとって有意義な学びとなるよう多彩な演題を準備いたしました。3年ぶりの現地開催では、各会場において活発な議論が行われたり、旧友との久しぶりの再会に笑顔が溢れるなど、現地開催の醍醐味を思う存分に堪能できる2日間となりました。

本学術集会を支えて頂きました学会理事、監事の先生方、多くの支援を賜りました協賛企業の方々、そして何より現地やwebから参加頂いた皆様に心よりお礼を申し上げます。クリティカルケア看護が今後ますます発展してくことを祈念し、学術集会終了の報告とお礼のご挨拶とさせて頂きます。誠に有難うございました。来年東京で行われる第19回学術集会においてまた皆様とお会いできることを楽しみにしております。

2. 委員会活動報告（教育委員会）

教育委員会 委員長　益田 美津美 氏

教育委員会では、クリティカルケアに従事する看護師の実践能力の向上を図ることを目的として、年1回程度のセミナーや学術集会における交流集会の企画・運営などの活動をしております。

現教育委員会は2019年度に活動を開始し、初年度は「知識から実践まで−クリティカルケア看護の総復習！−」として対面開催を予定しておりました。今でこそ、様々な看護学教育のDX化が進んでおりますが、日本ではじめてCOVID-19が確認されて間もないこの頃は、急遽オンラインに切り替えるという術を私たちは持ち合わせておりませんでした。また医療機能の維持に尽力することを最優先とし、初年度のセミナーは止むなく中止することとしました。

その後、長く続くコロナ禍において、本委員会でどのような教育的支援ができるのか模索し続けてまいりました。その中で、思考プロセスの言語化により実践能力、特にアセスメント能力の向上を目指して、2020年度「バーチャルシミュレーションを活用してクリティカルケア看護師の思考プロセスを学ぶ」、2021年度「ターニングポイントで考える敗血症患者の看護−エキスパートはこう判断する！−」をテーマに教育セミナーを実施してまいりました。

（写真）18th JACCN 学術集会交流集会にて

今後の教育セミナーは、教育委員会で行ったクリティカルケア領域における継続教育に関する文献レビューや計画中の継続教育内容のニーズ調査の結果、そしてコロナ禍における教育経験を踏まえて、社会情勢やニーズを反映した教育セミナーを企画してまいりたいと思います。

3．COVID-19重症患者の終末期における家族面会に関する学会からの提案（終末期看護委員会）

終末期ケア委員会　委員長
立野 淳子氏

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する院内感染防止策として、終末期においても家族が面会できないケースは少なくありません。しかし、COVID-19の流行が長期化する中で、面会制限による死別後の家族の悲嘆への影響や医療者のジレンマ等が着目されるようになりました。感染リスクと家族面会のメリットの両側面を考慮した対応を検討する時期にあると考え、終末期ケア委員会は、2021年10月に、COVID-19重症患者の終末期における家族面会に関する学会からの提案を公表しました。

（↑QRコードはこちら）

＜提案のポイント＞

☑ 感染可能期間を踏まえて隔離解除を医学的見地より検討し、患者と家族らが面会できる環境を整える。
☑ 隔離期間中であっても、終末期には特別な事情がある場合を除き、患者や家族らが希望すれば対面面会できる体制を整備する。
☑ リモート面会や窓越し面会など柔軟な対応が取れる体制を整備する。
☑ 家族面会の基準、方法、面会時の対応などは、多職種で検討する。

我が国は、今まさに第7波の感染の急拡大に直面しています。重症化は少ないと言われていますが、死者の報告が途絶えることはありません。感染防止を踏まえたより良い終末期ケアの実践のために、各施設で終末期の家族面会のあり方を検討していただけることを願っております。学会からの提案が、議論のきっかけや検討の際の資料として活用いただけますと幸甚です。

4．編集後記

COVID-19による感染拡大は、根幹である感染予防策を除き、都度、ルールや対策が国レベルで変更されてきました。限られた資源の中で従来以上の看護・医療を、高い柔軟性をもって求められてきました。

負の要素ばかり取り沙汰される一方で、私たちは、この3年で試行錯誤を繰り返しながら、対面せずにオンライン上で、複数で議論できること、研修を開くことを学んできました。3年ぶりの現地開催を含めハイブリッド開催となった第18回学術集会では、対面の良さ、現地開催の愉しさを感じる一方で、個人的には変化も強く感じました。

過去に固執せずに、オンラインシステムを否定せずに、これまでの取り組みを活かしていくことは大変な苦労です。ただ、クリティカルケアは、変化を常としている領域だからこそ、創造しつつ、この転換点を受け入れ乗り越えていく必要があると思います。現在、広報委員会も同様に新たな取り組みを検討しています。この取り組みも皆さまに受け入れてもらえることを願います。

河原崎　純

広報委員会　委員長：森一直　　担当理事：茂呂悦子
委員　：河原崎純、武内龍伸、池辺諒、中嶋武広、渡海菜央